

# 事業説明シート(概要説明書)

## ○事業の位置付け

事務事業名	小中学校・幼稚園研究推進事業	事業期間	
事業担当部・局、課、担当名	学校教育部 教育研究所	予算科目	01-100105-030000
総合計画の位置付け	01 豊かな心をはぐくみ、よきこびとふれあいにあふれたまち	対象・受益者	教職員
	1-① 一人一人の心のやさしさ、学ぶ意欲、生きる力をはぐくむ		
根拠法令(上位施策事業名)	1-①-5 基礎的な学力をみにつけ、個性を伸ばす教育を充実する	対象者数(全住民に対する割合) 48校(幼稚園5園を含む)	
事業開始・継続の背景	昭和28年から、市内各学校において、学校研究を活性化し、教職員の指導力向上を図り、児童生徒の生きる力を育むことを目的として開始し、継続しています。		
目的・目標	教職員の指導力向上のため、児童生徒の生きる力を育む学校づくりを目指した研究活動を委託しています。		

## ○事業の概要、年度別事業内容、事業費

実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託又は指定管理 (委託業務名と委託先) 小学校・中学校研究委託料(特別研究) 15校(小学校11、中学校4) 学校改革推進支援事業 28校(小学校17、中学校11) 学校改革推進支援事業(幼稚園) 5園	<input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕 (補助金名と補助先)
	<input type="checkbox"/> 貸付 (貸付先)		<input type="checkbox"/> その他
事業の概要	教職員の授業力や教育力の向上を図るため、学校研究や特別研究の委託を実施します。		
事業詳細	各学校で研究テーマを設定し、年間計画に基づいて実施しています。 委託金により、外部講師を招聘したり、学校以外で行われる研究会などに教職員が参加したり、研究の資料を充実したりすることができています。なお、特別研究委託校においては、研究発表会を設けたり、研究集録の発行等を行うことにより、市内各校で研究成果を共有するための情報発信の場となったり、研究推進の要となっています。 また、学校研究を行うことによって、教職員一人ひとりの指導力を高めたり、互いに学びあうことによって学校の教育力を高めています。  ※別添1参照		

(単位:千円)		平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 決算見込額	平成26年度 予算額
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他 特財				
	一般財源	3,080	3,080		3,080
事業費(A)		3,080	3,080	3,080	3,080
内訳	職員(人)	0.70	0.60	0.90	0.90
	再任用(人)	0	0	0	0
人件費(B)		5,673	4,809	7,154	7,032
フルコスト(A+B)		8,753	7,889	10,234	10,112
事業費内訳(平成25年度)		<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校・中学校研究委託料(特別研究) 124,000円×15校(小学校11、中学校4)</li> <li>学校改革推進支援事業 40,000円×28校(小学校17、中学校11)</li> <li>学校改革推進支援事業(幼稚園) 20,000円×5園</li> </ul>			

○事業の実績

指標設定理由等						
活動指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
	目標					
	実績					
上記以外の成果	<p>学校研究を活性化させ、教職員の指導力向上を図ることにより、児童生徒の生きる力を育む教育に資することを目的としており、継続的に活動に取り組むことによって学校の教育力が高まっています。</p>					
平成25年度の主な取組と成果						
<p>小学校・中学校研究委託料により特別研究を15校、学校改革推進支援事業を5園・28校に委託しました。すべての学校・幼稚園がテーマを設定し、校内研究会を実施したり、外部講師を招聘したりして研究・研修を深めました。また、この事業により、各学校が自校以外で行われる研究会などに参加して授業研究を推進したり、内容や研究の方法に関する情報交換を行ったり、研究の資料を充実させたりすることができました。</p>						

○事業分析

	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
事業分析	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	教育課題の解決を図るために、教職員の教育研究活動の充実を図ることは、学校設置者としての責務です。	●高 ○低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	学校における研究は、年度を越えて、継続的に積み上げて成果を上げるものなので、学校への支援も継続的であることが必要です。	●高 ○低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	小学校・中学校研究委託料(特別研究)と学校改革推進支援事業を並行して実施することで、重点化と一般化の均衡を保った施策となります。	●高 ○中 ○低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	教育研究活動の充実のために、有効な委託制度のあり方を研究する必要があります。	●高 ○中 ○低
今後に向けた課題の分析、課題に対する考え方				
<p>学校研究の充実に向けて、より有効な研究委託制度の検討が必要です。</p>				

## ○次年度以降の取組

### 平成27年度の取組方針

学校研究担当者への研修を充実させたり、各指導主事が積極的に学校と関わったりして、学校研究を活性化させ、委託料の有効活用を図ります。

## ○参考資料

### 比較参考値(他自治体での類似事業の例など)

同等規模の自治体（小田原市、厚木市、大和市）における学校研究の研究費負担状況は次のとおりです。

- ・小田原市・・・全て公費で負担している。
- ・大和市・・・全て公費で負担している。（担当課：指導室、学校教育課）
- ・厚木市・・・全て公費で負担している。（担当課：学校教育課）小・中学校の学校研究を委託事業とはしていないが、市立小・中学校全てに対して教育活動充実交付金を交付。（小学校23校、中学校13校に対して均等割額70,000円。小学校のうち1校を研究校に指定し、100,000円を増額して交付。交付総額は小学校1,710千円、中学校910千円。

### 平塚市の類似・関連事業(同一目的事業等)

教育指導課において、『生きる力を育む学校づくり推進事業』を実施しています。この事業は、子どもの教育活動を直接的に補助していることに対し、当該事業は、教職員の指導力向上を通して、児童生徒の生きる力を育てています。

# 小中学校・幼稚園研究推進事業について

別添 1

## 1 平成25年度 各幼稚園・小中学校研究テーマ一覧

★は特別研究委託校 ☆は学校研究委託校

中学校名	研 究 主 題	
江陽中学校	『道徳授業の研究』 ～道徳的な心情, 判断力, 実践力の育成に向けて～	☆
太洋中学校	「学習意欲を高める指導法と環境の研究」～教え上手から学ばせ上手に～	☆
春日野中学校	「学習指導要領に基づいた指導法の工夫・改善 一言語表現活動等の充実」	☆
浜岳中学校	よりよい人間関係づくりや自己肯定感を持たせる授業づくりをめざして (全教科・全領域)	★
大野中学校	学習意欲を高める授業づくり ～思考力・判断力・表現力を育てるために～	☆
神田中学校	確かな学力を育成するための授業力の向上 一生徒の実態をとらえた授業づくり	☆
土沢中学校	地域教材を活用した探求型学習の推進 (総合的な学習の時間)	★
金旭中学校	よりよい学習指導方法をめざして 学ぶ意欲と確かな力を, どのように育て評価していくのか, その具体的な手立てを考える	☆
中原中学校	言語活動の充実と評価	★
大住中学校	「思考力・判断力・表現力を育む学習指導の研究」	☆
山城中学校	「考えたことを表現する力」を高めるための授業の工夫	★
神明中学校	生きる力をはぐくむことを目指した教授法の深化	☆
金目中学校	あたたかな人間関係を形成し, 主体的に活動する生徒の育成 ～コミュニケーション能力の育成を通して～	☆
横内中学校	「教職員のきめ細やかな愛情をもった指導体制により, 『聴く力・考えて話す力・表現力』を育む教育の推進に努める」	☆
旭陵中学校	生徒にとって通いたい, 地域の方々が通わせたい旭陵中を目指して — 授業や行事の実践を通して —	☆

幼稚園名	研 究 主 題	
さくら幼稚園	<ぼかぼかことばでつながろう> 友達との関わりを広げ, 人とつながっていくための援助について, 言葉を通して考える	☆
ひばり幼稚園	「伝え合う力を育てていくための環境構成と教師の援助について考える」 (総合)	☆
土屋幼稚園	「幼児が主体的に生活を進めていくための, 教師の援助や環境構成について考える。」 (5領域)	☆
金目幼稚園	「言葉で伝え合う力の基礎づくり」自分の考えや気持ちを友だちに伝えたり, 自分たちで思いを調整したりできるようになるための教師の援助について考える (総合)	☆
港幼稚園	一人一人の発達を支える援助の在り方や環境構成について考える (5領域)	☆

小学校名	研 究 主 題	
崇善小学校	「自分の考えを持ち、表現できる子」	(国語科) ★
港小学校	子どもが生き生きと取り組む学習指導	☆
松原小学校	自分の思いや考えを伝えあえる子	(国語科) ☆
富士見小学校	「伝え合い、理解し合う子の育成」	(国語科) ☆
花水小学校	自分の考えをもち、課題を解決しようとする子を目指して	(国語科を通して) ★
旭小学校	「子どもたち一人一人が主体的に活動し、学び合える授業の創造」 ～算数的活動と言語活動の充実を通し、多様な考え方を伝え合える授業を目指して～	☆
大野小学校	共に学ぶ楽しさを味わう子をめざして ～伝える力・聞く力をもとにかかわる力を育てる学習活動～	(算数科) ☆
中原小学校	「互いの考えを伝え合い、考えの発展を目指す授業」 ～話し合う活動を通して、適切な表現力を育てる～	(全教科・全領域) ☆
豊田小学校	互いの立場や考えを尊重して、伝え合い、深め合える子の育成 ～伝え合う力を育てるために～	(国語科) ★
神田小学校	自分の考えを持ち、ともに学び合う子を目指して ～算数科を通して～	★
城島小学校	認め合い学び合える子どもの育成をめざして ～話し合い活動の中で自己表現できる子～	☆
岡崎小学校	「自分の見方や感じ方を大切にして、絵に表す喜びを味わわせる学習指導の工夫・改善」 (図画工作)	☆
金田小学校	『授業力の向上を目指して』 ～国語の授業を通して～	☆
土屋小学校	「学び合いの中で、自分の思いや考えを持てる子」	(算数科) ☆
吉沢小学校	「自ら学び互いにひびき合う子の育成をめざして」 ～学習意欲を高める指導のあり方 ～国語科を窓口にして～	★
金目小学校	子どもが生き生きと取り組む楽しい授業を目指して ～互いに認め学びに向かう力を伸ばす手立ての工夫 (ICT 機器の活用を通して) ～	★
横内小学校	子どもが自ら取り組み、関わりを通して学び合う授業づくり	(国語科・全領域) ★
八幡小学校	「子どもが、生き生きと学び合う国語の授業づくり」～思考力・判断力・表現力を育むために～	☆
南原小学校	「一人ひとりが輝く子」を求めて～コミュニケーション能力が育つ生活科・総合的な学習の時間～	★
真土小学校	相手の話をよく聞き 互いに理解し合う子をめざして	(国語科) ★
松が丘小学校	自分の考えを持って 表現できる子の育成 ～国語科授業における言語活動の充実～	☆
相模小学校	わかるよろこびを感じられる算数科の授業 ～自分の考えを表現できる子をめざして～	☆
なでしこ小学校	一人一人が主体的に問題解決に取り組む授業の創造 (生活科・社会科学習を通して)	★
勝原小学校	「ともに学び合う子の育成」 ～自分の思いや考えを言葉で表現する活動を通して～	☆
松延小学校	自分の思いや考えを進んで表現できる子の育成 ～考える場面を大切にした授業づくり～ (国語科)	☆
みずほ小学校	「豊かな学びを目指して～自分の思いや考えを進んで表現する子の育成～」	★
山下小学校	「学び合いを楽しむ学習づくり」 ～特別活動を通して～	☆
大原小学校	自分の思いや考えをもち、友達と伝え合える子をめざして ～国語科の授業を通じて～	☆

## 2 研究の実際

### (1) 崇善小学校の学校研究（特別研究委託校）

研究主題	「自分の考えをもち、表現できる子」～国語科を中心に～
研究内容	崇善小学校では、「一人ひとりが意欲をもち、主体的に学ぶ力の育成（子ども同士の関わり合いから学びを深める～と主題を定め、学年ごとに切り口とする教科を決め、研究に取り組んだ。子どもたち主体の授業を積み重ねることと並行して、常に「子どもの実態」「つきたい力」についても考えていった。25年度は、ここまで培ってきた崇善小研究の理念である「確かな学力を身につけるための授業改善に努める」を継承しながら、新たに主題を設定して進めていくこととした。また、「自分の考えを表現する」ことに密接なかかわりがある言語活動を充実させることを重視し、その中心である国語科から主題に迫っていくこととした。（抜粋）
研究経過 および 実践の内容	<p>4月 年間計画立案・提示</p> <p>5月 全体研究会・基調提案・年間計画・研究の進め方の確認</p> <p>6月 授業研究会5年「新聞記事を読み比べよう」 講師：玉川大学教職大学院教授 井出一雄 氏</p> <p>7月 授業研究会2年「まよい犬をさがせ」 講師：横浜国立大学教育人間科学部 附属教育デザインセンター主任研究員 白井達夫 氏</p> <p>8月 学年研究会</p> <p>9月 授業研究会6年「海のいのち」 講師：附属教育デザインセンター主任研究員 白井達夫 氏</p> <p>10月 授業研究会崇善級「し・る・か すごろくを楽しもう」（生活単元） 講師：子ども教育相談センター指導主事 山崎善男 氏</p> <p>11月 授業研究会3年「ほけんだよりを読みくらべよう」 講師：附属教育デザインセンター主任研究員 白井達夫 氏</p> <p>11月 授業研究会4年「ごんぎつね」 講師：玉川大学教職大学院教授 井出一雄 氏</p> <p>12月 授業研究会1年「すきなもののクイズをしよう」 講師：玉川大学教職大学院教授 井出一雄 氏</p> <p>2月 学校研究推進委員会 年度末反省・次年度の方向性について</p> <p>2月 学年研究会 年度末反省・実践記録集に向けて</p> <p>2月 全体研究会 年度末反省・次年度の方向性について</p> <p>※金曜日は原則学年研究日とする。 ※授業研究会前には、学校研究推進委員会を開催。</p>
研究の成果 今後の課題	<p>子どもの姿の変容</p> <p>○ペア学習、グループ学習などの学習形態の工夫により、他の意見を取り入れて発展させ表現するなどの姿が見られた。</p> <p>○新しい学習材の提供により、子どもの興味関心が持続し、個の考えが充実した。</p> <p>○教材の「まるごと読み」により、物語の全容が把握できるようになり、子どもが意見の根拠を出しやすくなった。</p> <p>など、実践の積み重ねにより、効果的な手立てや方法を多く得ることができた。</p> <p>今後の課題</p> <p>○成果を系統化、統一化する必要があるのではないか。</p> <p>○研究の進め方をさらに精査していきたい。</p>
委託料収支	<p>委託料 124,000 円</p> <p>内訳 講師報償費 10,000 円×3回＝ 30,000 円</p> <p>20,000 円×3回＝ 60,000 円</p> <p>消耗品費 付箋紙 5,380 円</p> <p>資料DVD 2,730 円</p> <p>記録用紙・ロール紙 11,715 円</p> <p>製本費用 14,175 円</p>

#### 授業研修会



(2) 浜岳中学校の学校研究（特別研究委託校）

研究主題	よりよい人間関係づくりや自己肯定感を持たせる授業づくりを目指して (全教科・全領域)
研究内容	浜岳中学校では、生徒が生き生きと授業に参加でき、自己肯定感を持つことのできる授業づくりが必要であると考え研究を進めた。授業研究のため、グループを作り、互いが授業を見せ合い、生徒が生き生きと授業に参加し、自己肯定感をもてるよう取り組んだ。ほぼ全員の教員が研究授業を行った。それをもとに研究テーマについての話し合いを行い理解を深めた。合わせて講師を招聘し、学習指導要領の学習会を実施した。
研究経過 および 実践の内容	毎月 推進委員会 年間 各種研修会参加（委託料収支参照） 8月 講師招聘研修会・全体研修会 講師：横浜国立大学附属鎌倉中学校副校長 青木 弘 氏 11月 全体会 1月 全体会 まとめ
研究の 成果 今後の 課題	子ども・教員の姿の変容 ○教員が、教科や経験を超えたグループを編成して互いに研究授業を行うことで、「魅力ある授業づくり」「生徒が楽しい、わかったと実感できる授業づくり」の研究が深まった。 ○小グループの授業形態を研究・展開したことにより、生徒アンケートからも「小グループの授業は楽しい」「自分自身の理解が深まる」との意見が多くあり、人間関係づくりを意識した授業の成果があらわれてきている。 今後の課題 ○経験年数の少ない先生方に参観や研究会への参加を勧め更なる授業力向上に努めたい。 ○次年度に研究を継続していくにあたり、その手法や手順についての精査。
委託料 収支	委託料 124,000 円 内訳 研修会参加費 夏季実技研修会（2日間） 1,000 円 参加交通費 4,880 円 音楽科特別講座（5日間） 10,000 円 参加交通費 4,880 円 教育者研究会 2,000 円 横浜国立大学附属鎌倉中学校研究発表会 2,000 円 参加交通費 2,520 円 啓林館教育セミナー 1,000 円 参加交通費 2,000 円 横浜国立大学附属横浜中学校研究発表会 2,000 円 参加交通費 2,060 円 栄養職員対象セミナー「食育を考える」 2,220 円 消耗品費 研究会用方眼入りボード 17,640 円 研修用ホワイトボード 37,800 円 資料作成費 2,750 円 文具（研究会用マジック等） 10,158 円 図書費 研究用図書 10冊 19,092 円



### 3 教育研究所の学校研究推進事業

#### (1) 学校研究推進担当者研修会（年2回開催）

##### ア 実施の内容

	開催日	対象者	方式	講師
第1回 研修会	平成25年 6月13日（木） 15:00～17:00	学校研究推進担当者 幼・小・中各学校 1名ずつ 計48名	集合研修 （講師による講義とグループ 協議）	慶應義塾大学 教職課程センター 鹿毛雅弘 教授
第2回 研修会	平成25年8月下旬～ 平成26年1月下旬	上記担当者および各学校で参 加を希望する教諭等（複数名参 加可） 参加者計77名	小・中学校研究会等への参加 （市内各学校で開催される33 の公開授業研究会から選択制）	各学校で招聘した講師 （大学教授、有識者、教 育委員会指導主事など）

##### イ 本事業に対する、学校研究推進担当教員対象のアンケート結果

###### 第1回研修会（アンケート回収数45）

	4とても思う	3まあまあ思う	2どちらともいえない	1あまり思わない	平均（4点中）
講演がわかりやすい内容だった	15	28	1	1	3.27
今後の研究推進の参考になった	17	22	6	0	3.24

- ・なかなか他市や他校の研究を深く知ることはできないが、今回のような場があると講演や情報交換で見ることができて大変参考になった。（小学校教諭）
- ・分かり易く、研究会のあるべき姿を示していただきありがとうございました。（小学校教諭）
- ・付箋紙を使うなど工夫されていた点、職員が教科の枠をこえて視点を共有しているところなど、とても参考になった。本校でもまずやってみようと思う。（中学校教諭）

###### 第2回研修会（アンケート回収数60）

	4とても思う	3まあまあ思う	2どちらともいえない	1あまり思わない	平均（4点中）
今後の研究推進の参考になった	40	17	3	0	3.62

- ・多くの先生方が、一つの教材や支援の方法について話し合い、方策を出されていることに感心した。高学年の先生も幼児期のかかわりの大切さを理解してくださっていることが分かり、今後の指導にいかしたいと思った。（幼稚園教諭）
- ・中学校の先生の意見を聞いたことが良かった。勤務校の教科と違う教科の研究会に参加できて良かった。（小学校教諭）
- ・一人ひとりが研究内容を良く理解し、高い意識を持って研究会に参加していた。研究の積み重ねを感じ、教科を一つに絞っていることの良さを感じた。（小学校教諭）
- ・他校の雰囲気を感じられ、学校の様子によって工夫するところ、工夫すべきところが違い、いろいろ勉強になる所があった。その年の生徒の様子や、学校の雰囲気も研究会をするにあたって考えていく必要があると感じた。（中学校教諭）

#### (2) 各校授業研究会における教育研究所指導主事の派遣

授業研究会等において、教育指導課と連携し、指導主事を学校に派遣している。また各学校の研究テーマを実現するため、研究会の協議内容を受けて、学校研究の活性化と充実が図れるよう指導助言を行っている。

#### (3) 平塚市内の学校への研究成果等の普及・還元

教育委員会の機関紙「平塚教育」に特別研究委託校の研究抄録を掲載し、平塚市内全教職員で各学校の研究成果を共有している。また、研究の成果をまとめた各校研究紀要の収集を行い、各校に内容の周知をしている。事業費の活用状況についても実施報告書の提出を義務付け指導を行っている。

各校で行われる学校研究に関する研修や、研究発表会の内容等について市内の学校に情報を提供し、研究についての情報を共有を図っている。